

岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 53 号

2007 年 3 月 発行



目 次

会長挨拶	会長 佐々木 喜八郎	1
楽しい思い出の38年間	柏 葉 安兵衛	2
電気科会の思い出	簾 福 寛	4
42年をふりかいて	吉 田 功	6
草刈賞		7
「草刈賞」選考要項		7
第3回草刈賞受賞者の紹介		8
草刈賞を受賞して		9
電気電子工学科の近況	学科長・専攻長 山田 弘	12
情報システム工学科の近況	学科長・専攻長 西山 清	14
電気系学科の構成員名簿		15
《支部だより》 平成18年度仙台支部総会		16
平成18年度東京支部大会		17
平成18年度盛岡支部総会		18
鎌田徳美先生・入江泰先生の思い出を語る会		19
平成18年度電気電子情報科会総会		24
平成18年度電気電子情報科会総会議事録		25
平成17年度決算書		26
平成18年度予算書		27
平成18年度電気電子情報科会役員名簿		28
平成17年度役員会経過報告		30
年会費納入表		31
年表		32
編集後記		36
平成19年度総会並びに懇親会開催の御案内		裏紙

ご 挨拶

岩手大学工学部 電気電子情報科会会長 佐々木喜八郎



会員の皆様には、それぞれの分野において、鋭意ご活躍のことと推察いたします。また、「科会」が昭和16年に発足してから今年で66年になり、卒業生延べ5,300名、会誌「きたかみ」送付の会員数が4,300名近くにもなりましたが、喜寿、米寿を迎えられて、なお矍鑠たる諸先輩が活躍されておられることは慶賀にたえません。

わが母校も官から民へ変わり、新学長の指揮の下に着々と新しい体制へと移行しており、学部間の連携をもって新しい研究に取り組み、地域連携推進センターの活動を始め、今年の夏には盛岡市からの出資で工学部内に盛岡産学官連携研究センターが開設される等、地域からの期待も高まっております。

昨年は工学部への進学希望率が低下したと報道され心配しましたが、他大学より試験科目数の多かったのが影響したらしいと伺い安堵しました。いずれ学生諸君に羨望され、将来性のある魅力ある大学に成って欲しいものです。

さて、昨年の平成18年度の東京での総会において、引き続き会長の席に留まることになり責任の重さを感じておりますが、「科会」の振興、会員の親睦等色々問題がある中で、過年度の仙台での総会で取り決めた卒業後10年ごとに10年会費1万円の徴収業務が、当面先行する事務課題と思っております。

単に会誌「きたかみ」で会費納入をお願いしても中々浸透せず、東京、仙台、盛岡の各支部におきましても、如何にして会員に浸透させていくべきか、アイデアを出し合って努力しております。昨年度は各支部ごとの人数割りで特別経費を配分して「科会」意識の啓発に努力しているところであります。

これまでの会費徴収の結果を見ますと、
会報「きたかみ」で会費の納入をお願いした会員 2,824人の中で
平成16年末までに納入された会員は 772人（納入率26.2%）
となっており、年会費納入制度の当初見込み納入率50%とは、残念ながら程遠い感じであります。

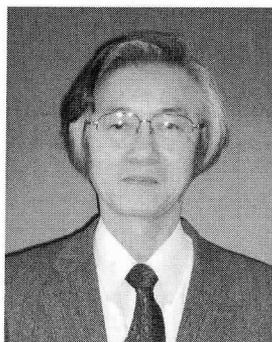
専門学校時代から大学発足当初のクラスは70%から80%と納入率が高いのですが、卒業年次の新しいクラスの納入率は10%程度と下がっており、このままでは将来の「科会」運営に大きな影を落とすことになりかねません。

何とぞ、別表のクラスごとの会費納入資料をご覧頂き、まだ納入されていない方々は、同級生とも連絡をとり「電気電子情報科会」の将来にわたる健全な発展のため、年会費の納入にご協力戴きたく、お願い申し上げる次第です。

終わりに会員皆様の今後のご活躍と、ご健康を祈念してご挨拶といたします。

楽しい思い出の38年間

元電気電子工学科教授 柏 葉 安兵衛



会員の皆様には恙なくご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

私は、昨年(平成18年、2006年)3月31日定年により退職いたしました。岩手大学工学部電子工

学科に着任したのは昭和43年(1968年)4月1日でしたので、38年間の長きにわたり勤務したことになります。もっとも私は昭和34年(1959年)4月岩手大学工学部電気工学科に入学しましたので、大学院学生の5年間を除いても42年間直接的に岩手大学にお世話になりました。

私が電気工学科に入学したのは、工学部の前身である盛岡高等工業学校が創立(1939年)されて20年、岩手大学工学部発足(1949)から10年という時期で、いたるところに創立当初の面影がまだ強く残っていました。創立当時から草刈、鎌田、入江の3先生はご健在でしたし、建物もほとんどが当初のままでした。4年になってAコースの大内先生・佐藤先生の研究室に入り、佐藤淳先生のご指導を頂きました。卒業研究の内容は「絶縁油の導電機構に関する研究」で、東北電力に入社した浦田寛君と二人で丸善の7桁対数表とタイガーの手回し計算機を頼りに、微分方程式を朝から晩まで毎日数値解析したことが懐かしく思い出されます。

私たちが卒業する頃は景気が良く、就職に困ることはありませんでした。4年生の学生は夏休みに工場実習に行き、就職もそこに決めるというケースがほとんどでした。私は大学院進学を希望していましたので、実習先は会社ではな

く東北大学電子工学科の和田正信先生の研究室に行き、大学院でも和田研究室で勉強しました。昭和30年代からしばらくは工学部の拡張時代で、岩手大学工学部でも昭和34年に応用化学科が新設されています。その後、昭和38年に機械工学第二学科、そして昭和41年には電子工学科が設置され、さらに草刈先生が二度目の工学部長時代の昭和43年、大学院修士課程が設置されて電気工学専攻が誕生しています。このような時期でしたので、大学院を出てすぐ母校に採用になったものと思っています。岩田純蔵先生(大学1回生)と佐藤清忠さん(現一関高専)と一緒にでした。

電気工学科には同期の尾鷲健一さんと旗福寛さんが勤務していたほか、学生時代に教わった先生方や職員の皆様がおられましたので、すぐにとけ込むことができました。私は一年前に着任していた齋藤弘先生の研究室に所属し、いろいろご指導頂きました。最初の年の配属学生さんは、大学院修士課程第一回生の1名と4年生2名でした。すでに現在の建物が新築されており、初めての研究室は3階だったと記憶しています。私は大学院で、硫化カドミウム(CdS)を使用した「薄膜トランジスタ(TFT)」の研究を行っていましたので、CdSとその関連材料の薄膜の研究から着手しました。幸い齋藤先生の計らいで真空蒸着装置等の設備を用意することができ、それに学生さん手作りの装置で研究を立ち上げることが出来ました。当時、夜も昼も研究室の立ち上げや実験に一所懸命努力してくれた学生さんのことが思い出されます。しばらくして池田俊夫先生が東北大学から移ってこられ、私は同じ研究室でご指導頂くことになりましたが、間もなく馬場守先生も東芝から着任

され、研究室の充実が図られました。そのころにはCdS、CdSe膜を使った太陽電池の研究に重点を移していました。TFTでも太陽電池でも学生さんは大変がんばって沢山のデータを残してくれましたが、学術雑誌に論文として公表し残したのも多く、大変申し訳なく思っています。太陽電池も発光ダイオード(LED)も基本的に同じ構造なので、CdS太陽電池に電流を流すと緑色発光するかもしれないと思い、卒業研究の学生さんに実験してもらっていたところ、ある日発光を確認でき、とても嬉しかったことを覚えています。その後はLEDに力を入れ研究を続けてきました。

38年の間に沢山の卒業生が研究室を出て活躍されています。振り返ってみますと数々の楽しかった思い出が浮かんできます。研究そのものも楽しいことでしたが、大学以外で学生さんと過ごした思い出が忘れられません。大学の創立記念日など、いろいろな機会を見つけては岩手山、姫神山、早池峰山、兜明神岳、南昌山などへ登りましたし、夏の三陸海岸や岩手山青年の家での研修ゼミ、スキー、県内外の工場見学、名所旧跡巡りなど、よく歩いたものです。また毎年のように学生さんと一緒に学会に参加し、様々なところに立ち寄るのも楽しいものでした。ここ7-8年は学生さんと毎年国際会議に出かけ、研究成果を発表するとともに見聞を広めています。

大学教員の仕事は教育と研究ということになっていますが、そのほかにも電気電子情報科会(当時は電気科会)を始めとする同窓会の仕事にも、一戸先生のお手伝いをして大分かわりました。これらの仕事は意外と時間がかかるもので、久保田賢二先生など私と組んで大変だった方もいらっしゃるはずです。最近大学も同窓会の重要性を認識いただいたことは良いことだと思っています。大学が純粋な国立から法人

になり、同窓生の果たす役目も一層重要になってくることでしょう。会員の皆様には工場見学、就職、講演など、いろいろな面で大変お世話になり有り難うございました。

4年ほど前、岩手県内にも工場がある「東京電波株式会社」が酸化亜鉛(ZnO)の大きな結晶を作ることに成功したので、これを使って付加価値の高い電子デバイスの生産拠点を岩手県に形成したいという話がありました。ZnOはCdSと親戚の材料ですが、ワイドバンドギャップ半導体と呼ばれるものの一つで、様々な電子デバイスの材料として注目されています。私は定年が近かったので、ZnOデバイスの研究開発を手がけるのに気が進みませんでした。結局引き受けてしまい、現在四苦八苦しているところです。このような事情で退職後も国、県、大学等の援助を頂きながら岩手大学地域連携推進センターに籍を置いてZnOデバイスの研究を続けています。会員皆様方のご激励とご協力をお願い申し上げます。

大学入学当時からはほぼ50年、この間に世の中は随分変わったと感じます。盛岡もすっかり変わりました。大学も大きく変わり、この先も更に変わりそうです。どのようになっていくのか私にはわかりませんが、変わるたびに仕事が増える教職員の皆様には同情を禁じ得ません。ご活躍をお祈り致す次第です。

楽しみながら38年間仕事をし、無事退職できましたのは、ひとえに恩師の先生方、ご指導ご協力をいただいた教職員の皆様、研究室で一緒に勉学した卒業生の皆様そして電気電子情報科会会員の皆様からのお世話によるものでございまして、衷心からお礼を申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様方のご健勝とご活躍、また電気電子工学科、情報システム工学科そして電気電子情報科会のご発展をお祈り致します。

電気科会の思い出

元電気電子工学科助教授 旗 福 寛



私は昭和 38 年 (1963) 3 月に電気工学科を卒業した大学の 11 回生です。卒業のとき草刈遜先生と卒論の指導教官大内三千三先生のご配慮をいただきそのまま

電気工学科に勤務することになりました。

当時、電気科会の仕事は卒業生である一戸英敏先生 (S17 年卒)、藤田勝美先生 (S27 年卒)、飯岡圭輔先生 (S33 年卒) 方が総会の準備や名簿の整理など、手分けしてやっておられ、私はそのお手伝いを仰せつかっておりました。それまでの電気工学科の卒業生の数は専門学校の方が 10 回まで 700 名ぐらい、大学は 11 回まで 300 名ぐらい、合計 1000 名ぐらいでしたので総会や役員会に出席される方々は勿論のこと、一般の会員でもお名前を聞くと何年卒の方であるか凡そ勘で分かったものです。

卒業最初の年の昭和 39 年 1 月には草刈先生の還暦祝賀会が清秀閣多賀で行なわれ尾鷲健一さんと私が先生に赤いちゃんちゃんこをお着せする役目でした。その後、大内先生の退官祝賀会 (昭和 39 年 6 月)、鎌田先生の退官祝賀会 (昭和 42 年 6 月)、入江先生の還暦祝賀会 (昭和 43 年 3 月)、草刈先生の工学部葬 (昭和 43 年 7 月)、一周忌追悼法要 (昭和 44 年 7 月) などいろいろなことができました。

昭和 41 年の電子工学科の設置と昭和 50 年情報工学科の設置で電気系三学科となり、三学科

一体として教育研究体制がとられていましたので 3 学科の卒業生は自然に電気科会員となりました。

平成 4 年 学部改組によって電気系 3 学科は電気電子工学科と情報工学科に分かれました。私は電子工学科の電子材料講座に所属していましたが、この改組で講座は材料物性工学科 (金属、物理主体の学科) に組織替えになりました。そこで私も材料物性工学科に転籍になりました。このことで電気系では三学科一体の教育体制は崩れました。

平成 8 年博士課程の設置のころには電気電子工学科と情報工学科では共通する科目もなくなり、情報工学科の卒業生を電気科会に引き留めることの是非をめぐって電気科会では長い検討がなされました。

結局、平成 11 年の科会総会で科会の名称を「電気電子情報科会」と変更し、これまで通り情報の卒業生も電気科会に加わることに落ち着きました。

理由は、この頃には情報工学科も設置 20 年も経っており、卒業生も 900 名近くに達していたので、ここで 900 名を電気科会から分離して別に情報科会を作るよりは、このままの方が無難と思ったからと考えられます。

私が材料物性工学科に在籍しているときには材料物性はじめ、工学部の他の学科には会誌の発行などの年行事を行っている科会はありませんでした。卒業生の教官の内には電気系が学科の同窓会、電気科会を持っていることを不思議

に感じている人がおりました。同窓会の仕事は一祐会に任せて教官は教育研究に専心し、研究業績こそ上げるべき、という意見でした。

平成12年福祉システム工学科の設置に伴いマイナーな学部改組があり、齋藤弘先生と谷口宏先生が電気電子から新設の福祉学科へ移動しました。この時、私簇福は玉突きのような形で材料物性工学科から電気電子工学科にもどりましました。

この頃、一祐会の方では会員が1万5千名を越え、同窓会組織の活動をきめ細かに行なうには学科の組織、すなわち科会を育てるべきという方針が出されて、科会活動費が予算計上されるに至りました。その結果、現在では電気情報以外の各学科にも科会ができましたが、会費を決めて事業計画を実行している科会はまだないようです。

ところで、平成16年、大学は独立行政法人となり、教職員は国家公務員ではなくなりました。一方、受験人口の減少によって全国どこの大学でも生き残りをかけて、いろいろな方策を

講じております。

私が定年退職する平成17年度の終わり頃に、岩手大学の経営陣から各学部の同窓会の統合化の提案がなされました。現在一祐会の会長は太田原功先生、事務局長は田山典男先生です。電気電子情報科会としては岩手大学の動向を見ながら両先生を強力にバックアップしなければならないと思います。

しかし、大学内では今後学部や学科の離散集合も想定されますので、同窓会の会員組織については大きな変革があるかも知れないと私は思っています。

以上、昭和38年4月から平成18年3月まで43年間の電気科会との関わりを思い出して、定年退職に当たってのお礼の言葉に代えさせていただきます。

特に定年退職が迫ってきたここ数年の間に、私より前に会社を定年退職された卒業生の方々から退職後の身の処し方について貴重な経験談を頂き、感心すると共に勇気付けられました。(平成19年2月)



42年間でふりかえって

元工学系技術室技術専門員 吉田 功



会員の皆様方におかれましては、日々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昭和39年3月、工業高校を卒業と同時に私を含めた4名の仲間は電気工学科に技術職員として採用して頂きました。私は故・藤田先生の研究室配属となり、しばらくの間先生と同じ居室で教育・研究に関する支援を行うこととなりました。

研究室では電気基礎部門を担当しておりモーターや変圧器、電子管回路に渡る幅広い研究を専門としておりました。当時学生基礎実験は一研究室で世話係から担当全てが行われており、自分より年上である学生相手の対応に奮闘したのが赴任最初の用務でした。論理回路が研究の一つとして取り組まれており、真空管を用いた回路作りに取り組んでいる途中で、トランジスタ素子が入手できるようになりました。

この2つの素子を組み入れた回路作りに挑戦するなど、興味ある実験をさせていただいておりました。時折、先生への手伝いのなかで罫線で囲んだ表のような印刷物を用意することがありました。その用紙は、英数字や記号の羅列の記入に使用され、非常に時間を要する作業に使用されていました。この印刷の仕上げが、私にとってコンピュータとの最初の関わり合いでありました。数値や英字の組み立ては機械語のプログラミングでありました。簡単にコンピュータを操作するにはプログラミング言語を覚えることと興味を持った私は、机上でのプログラミングのまねごとを始めました。コンピュータ自

体、手軽に触れることは出来なく、関連資料も少ない頃でありました。

その後、コンピュータ利用のために県外の講習会に参加できる機会を何度か与えていただき、東北大学や大阪大学へ出張し、大型コンピュータの使用を経験できました。これを機に少しずつ、プログラミングによる教育研究支援を行えるようになりました。しかしながら計算を速く、大量に処理するものの、それ以外将来何に 응용されるのかと具体的な想像がつかない頃でもありました。

昭和50年情報工学科設立とともに居室の研究室も移設し、研究室単位でも小型コンピュータを使用できる時代になってきました。この時期と前後し、ネットワークの試験実験も始まり、実験や打ち合わせの手伝いとして仙台、米沢方面へ出向く仕事もありました。それら実験の成果の投稿に支部大会へ連名させていただきました。平成の年代に近づくにつれてコンピュータの飛躍的な性能向上とともに画像処理の用途が発生し、手作りの処理ソフトウェアが早急に要求されてきました。私は元来、仕事のペースが速いほうではありませんが、常にゆっくり見守っていただくことで支援業務に集中することができました。

平成12年技術職員は待遇改善、業務の独立性などを掲げ独立し、今日に至っておりますが、今後の技術室の発展を願いますとともに、42年間の長きに渡って大過なく定年退職を迎えることができましたことは、卒業生の皆様、業務派遣先でお世話になった西谷教授をはじめ電気電子工学科と情報システム工学科の教職員の皆様の暖かいご指導、ご支援のお陰と思っております。真にありがとうございました。

－草刈賞－

「草刈賞」選考要項

平成 16 年 1 月 7 日制定
工学部学科長会議承認

1. 趣 旨
盛岡工業高等学校（岩手大学の前身）電気科教授・初代科長、岩手大学工学部教授及び第 4 代、第 7 代工学部長として岩手大学の発展に貢献された草刈遜先生のご生誕 100 周年を記念して、草刈先生ご生誕 100 周年記念事業実行委員会からの寄附により、工学部に「草刈賞」を設置する。
 2. 目 的
草刈先生の教えを後世に伝えるとともに、意欲的な学生生活を送った者を表彰し、その栄誉を讃えることを目的とする。
 3. 表彰対象者
表彰対象者は、工学部電気電子工学科及び情報システム工学科（以下「両学科」という。）を卒業予定の学生のうち、学生の模範となる学生生活あるいは後輩の目標となる学生生活を送った者で、原則として両学科各 3 名以内とする。
 4. 選 考
 - (1) 受賞候補者選考のため、「草刈賞」選考委員会（以下「選考委員会」という。）を置く。
 - (2) 選考委員会は、両学科の学科長、両学科から選出された教員各 1 名及び電気電子情報科会から選出された者 2 名の計 6 名で構成する。
 5. 受賞候補者の推薦
両学科の学科長は、受賞候補者を推薦理由書を付して選考委員会に提出する。
 6. 選考結果
選考委員会は、選考結果を学部長に報告する。
 7. 表 彰
受賞者には、表彰状及びメダルを贈呈する。
 8. 表彰の時期
受賞者の表彰は、原則として卒業式当日に行なう。
 9. その他
本要項に定めるもののほか、実施に関して必要な事項は、別に定める。
- 附 則
本要項は、平成 16 年 1 月 7 日から施行し、平成 15 年度卒業生から適用する。

草刈賞に佐藤淳先生ご寄付

「草刈賞」につきましては、会誌「きたかみ」50号、51号、52号に設置経過等その詳細が報告されていますので皆様ご存じのことと思いますが、草刈賞は「草刈遜先生ご生誕 100 周年記念実行委員会」が草刈賞設置を目的にして基金を岩手大学に寄贈したことを受け、平成 16 年 1 月に岩手大学によって制定されたものです。岩手大学では、電気電子工学科および情報工学科を卒業する学生の中から賞の目的にふさわしい学生を表彰することとし、寄贈された基金を元に立派な記念メダルと表彰状をおよそ 10 年分用意しました（きたかみ 52 号を参照して下さい）。11 年目以降の維持につきましては見通しがありませんでしたが、大学では草刈賞基金受け入れの準備はできており、何時でもどなたでも寄付できる状況になっています*。

早いもので、草刈賞は来年で発足から 5 回目の表彰を迎えます。10 回目というのも間もなくのことで、その後は自然消滅してしまうのかどうか大学側としても心配していたようです。そのような折り、平成 18 年 2 月、佐藤淳先生から草刈基金に「50 万円」のご寄付がございました。佐藤先生は電気工学科教授、工学部長などを歴任され、岩手大学の発展に大きく貢献された先生です（きたかみ 52 号を参照して下さい）。佐藤先生は草刈先生を大変尊敬なさっておられ、草刈賞の存続を願って、ご自身が 80 歳になった記念としてご寄付なさったとうかがっております。これで草刈賞はさらにしばらく存続できることとなりました。

科会の皆様にも広くお知らせし、佐藤先生に感謝申し上げる次第です。

*奨学寄付金という名目ですが、目的として“「草刈賞」のため”と記入していただければ結構です。

第3回草刈賞受賞者の紹介

☆第3回草刈賞受賞者は下記の通り（メダル番号、受賞者氏名、受賞理由の順）。平成17年度表彰のメダル刻印番号は010～013です。

☆平成18年1月27日選考委員会決定、同日付で選考委員会報告書を工学部長に提出、平成18年3月23日工学部長名で草刈賞授与。

《電気電子工学科》

010 Latifah Binti MOHAMED（ラティファ モハメド）

マレーシア出身。流暢な日本語を駆使しつつも、更に研鑽を積んでいる。母国と日本の文化に敬意を払い、努力する姿勢は特筆に価する。明るく、礼儀正しく、協調性に富み、強い責任感と忍耐力を有する。先輩、後輩双方から厚い信頼を寄せられており、研究室行事等では、リーダー的役割を果たしている。通常は大学院生が依頼されるチューターの仕事を立派に果している。

学習面では、電気回路学や電磁気学などの基礎科目は無論のこと、電子計算機工学、LSI設計等のデジタル電子工学分野に興味を持って勉強している。ひたむきな生活態度と学習態度は、学生の模範である。

011 甚野伸雄（じんの のぶお）

甚野君は、エネルギー環境教育活動に自ら進んで参加した。彼は、宮城工業高等専門学校からの編入生である。高専卒業生が得意とする「ものづくりの能力」を存分に活かして、自力で種々の教材を開発し、イーハトーブ科学技術展（滝沢村、イオンショッピングセンター）、おどろきのサイエンスショー（水沢南公民館）、ミニエネルギー展（矢巾東小学校）などの他、理科教室なども数多く実施している。上述の矢巾東小学校のイベントは、岩手大学と矢巾東小学校の共同企画であり、同輩学生5人のリーダー役として、活気あふれる体験学習を実施し、教育委員会からも高い評価を受けた。卒業後は、三菱電機株式会社に就職。

《情報システム工学科》

012 高橋俊一（たかはし しゅんいち）

入学以来岩手大学のサークル「キッズ」に所属し、子供たちを通じて社会との交流を深めている。3年次にはサークルの会長として、その職責を果たした。外部団体からの要望に応え、平均月1回以上のボランティア活動を継続して行っている。

考古学に興味を持ち、「土器片の自動復元手法」が研究課題である。4年生と修士課程の3年計画で研究活動に取り組んでいる。土器片は、色や出土場所などを基に、人手で分類した後、それを組み合わせて復元するので、多大な時間と経験が必要とされている。情報技術の導入により、そのシステム化を図ることが目的である。滝沢村の埋蔵文化財センターに赴き、土器形状の組み合わせ方を体験するなど、研究活動への取り組みは他の学生の模範である。

013 中鶴間 愛（なかつるま あい）

ボランティアサークル「Dream」に2年生から所属している他、いろいろなサークル活動に積極的に参加し、幅広い年齢層と交流しながら、企画、宣伝、当日の受付や会計に至るまで、あらゆる役割をこなして果している。

「CGにおける新しい映像生成手法に関するソフトウェア開発」を卒業研究課題としている。これは、既存の映像をもとに、印象の類似した任意の大きさや長さを持つ自然な映像を自動生成するものである。基盤となる理論の理解から具体的な実現方法の検討、プログラム作成、実装など、全てに対して粘り強く真剣に取り組んでいる。勉学における真摯な取り組みと共に、社会との積極的な交流の中で自らの人格の育成を行う姿勢は他の学生の模範である。

《第3回（平成17年度）草刈賞選考委員会委員氏名》

電気電子工学科	藤原 民也（学科長）、長田 洋（助教授）
情報システム工学科	安倍 正人（学科長）、西山 清（教授）
電気電子情報科会	佐々木 喜八郎（会長）、太田原 功（顧問）

草刈賞を受賞して

電気電子工学科 ラティファ モハメド



第3回の「草刈賞」をいただいてその喜びから早い一年が経とうとしています。私の4年間の学生生活については、他の受賞者に比べてあまり派手ではありませんが、私にとってとても充実した4年間でした。

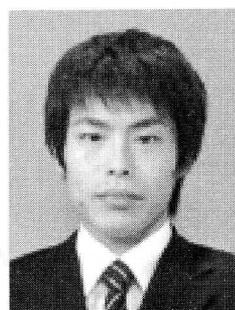
日本で勉強することは私にとって青春でもあり、人生の中で最も自己成長ができた期間でした。勉学面では、チューターの仕事や岩手大学大学院に合格し、課外活動面では、大学祭や盛岡さんさ踊りを楽しく過ごしました。

振り返ってみると、私は本当に周りの人たちに恵まれていました。みんなは、いつも私の変

な日本語を我慢しながら色々な意見や話を聞いて、優しく指導して下さいます。その優しさは大学の生活だけではなく、社会活動で知り合った一般の盛岡の人々にも見られます。世間話で気楽に日常生活について話し合っている時も、いつも楽しく異文化を味わう雰囲気でした。

私は盛岡が大好きで、今では盛岡が第2の故郷のように思えます。今の自分があるのはここで学生生活を送ることができたからであって、本当にここに来て良かったと思います。温かく見守ってくれた両親や先生方、先輩方そして友達には深く感謝しています。このような賞を頂けたことを私は一生誇りに思います。卒業後は一人前になって立派な講師になりたいと思います。

電気電子工学科 甚野伸雄



私は、宮城高専で電気工学科を卒業してから、編入学で岩手大学の電気電子工学科へ進学しました。実質二年間しか岩手大学で学んでいない私が草刈賞を頂いていいのか初めは戸惑ってしまったのが率直な感想でした。

た。

岩手大学は平成十七年度より、エネルギー環境教育情報センターより岩手県内のエネルギーや環境に関する教育を進めていく拠点大学に選定され、それについて研究を進めていくことになりました。大学が地域の拠点とし活動するといったもの自体がここ数年のことであり、手探りの状態で研究を進めていきました。内容としては、小中高校生を対象にエネルギーや環境問題についてのイベントや出前授業を行って教育を進めていくというもので、それに使う教育教材や資料を作成して実践していくというもので

した。イオン盛岡や公民館、学校等でイベントを行ってきましたが、説明している私が見る子供たちの反応を見るのがとても楽しく、教育というものの片鱗を少々感じる事ができたことはとても貴重な体験でした。

ゆとり教育の弊害が叫ばれている世論の中で、様々な時代の影響を受け新しい教育基本法が交付・施行され、エネルギーや環境についての教育がこれにより、どういった位置づけになるかはこれからの課題とは思いますが、ますます重要になっていく分野であることは言うまでもありません。

私は、社会人になってからは関東に住んでおり、学生時代を振り返ると、岩手県の素晴らしい自然の中で教育を受けることができることは、環境問題に目を向けられる人になるためにとても良い環境であるということを感じております。そういった地に構える岩手大学工学部の教育にご尽力された草刈先生の賞をいただきことを光栄に思います。

情報システム工学科 高橋俊一



草刈賞を頂いてから1年が経過しましたが、今でも自分が受賞したという実感が沸かない時があります。同時に私の大学生活に対して、大変名誉のある賞をもって評価していただいたことへの感激と感謝の気持ちを感じております。

現在、私は岩手大学大学院へ進学し、研究に励む毎日を送っております。ある課題に直面しては新しいアルゴリズムで解決を試みて、また別の課題が出てくれば別の視点から考え、それでも解決しなければ別の方法で…と、お世辞にも順調とは言えない試行錯誤の毎日です。それでも、以前ならば途中で諦めてしまっていたような私ですが、今はめげずに地道ながらも少し

ずつ前進していく自分を実感します。失敗から得るものもあることを改めて再認識しました。草刈賞の受賞が無意識のうちに自分自身の自信となり糧となり、私自身を強くしてくれたのだと感じております。

もちろん、現在に至るまでの私の人生は、まわりの先生方、先輩方や両親、友人と多くの方の支えがあつてのものです。特に大学生活は様々な経験をして、様々な知識を学び、多くの出会いを通して自分自身が一番成長できた時間です。その時間を支えてくれた方々に対して、深く感謝しております。

草刈賞受賞を誇りに、その名に恥じないよう日々成長し、まわりから認められるような人間を目指していきたいと思います。また、今度は自分自身が、少しでも社会に貢献できるよう努力していきたいと思います。

情報システム工学科 中鶴間 愛



私がボランティア活動を始めたきっかけは「役にたきたい」という思いからでした。これまで両親をはじめとして多くの人に支え助けられてきました。私はあまり自分に自信がない人間でしたが、大学入

学を機に何かをしてみたいと思うようになりました。そんな中、幸運にも、大学在籍中に盛岡を盛り上げるために様々な活動をしている方と知り合うことができました。そして、環境、音楽、国際交流、地域おこしなど多岐にわたるイベントの手伝いをさせていただきました。イベントでは同年代だけではなく、子供から社会人、

ご年輩の方々と接することができ今まで知らなかったことや、自分とは違う考え方など多くのことを学ぶことができました。大変だと思ったこともありましたが、良い経験、よい刺激になったと思っています。また、活動を通して様々な分野に興味、目を向けるきっかけになりました。

草刈賞受賞については自分の活動がこういう形で評価されたことを光栄に思いつつ、私なんかでいいのかという思いでいっぱいでもあります。しかし、この賞を励みにさらに頑張りたいと思いました。

現在もイベントのお手伝いは続けています。日々勉強だと思いながら楽しく、みんなが笑顔になれるように、日々精進していけたらと思っています。

第1回（平成15年度）受賞者名

001 上和野 大 輔（かみわの だいすけ）
003 澤 田 定 秀（さわだ さだひで）
005 劉 路（りゅう る）

002 菊 池 孝 信（きくち たかのぶ）
004 須 藤 功 平（すとう こうへい）

第2回（平成16年度）受賞者名

006 阿 部 雅 浩（あべ まさひろ）
008 菅 原 潤（すがわら じゅん）

007 高 橋 拓 未（たかはし たくみ）
009 小野寺 博 晃（おのでら ひろあき）



草刈メダルと賞状

これと同じメダルを記念にほしいという会員の希望により用意しました。1個6,000円（通し番号なし、賞状なし）。購入希望の方は事務局まで

電気電子工学科の近況

電気電子工学科 学科長・専攻長 山田 弘

会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。当学科では柏葉安兵衛先生と簀福寛先生、加藤昭二さんが退職されました。柏葉先生は学科の一部を借りて青色発光ダイオードの研究と御講義、簀福先生は非常勤として御講義を続けられております。

18年度の学科の大きな問題は入試と学部改組かと思えます。18年度入試は他学科同様に定割れとなり、3月末に追加募集をやり何とか定員を確保しました。電気電子工学科は工学部内では際だって就職の良い学科ですが、岩手大学に限らず、全国的に電気系工学科の受験生人気は低めです。そのため、入試科目や配点などをよほど慎重に考えないと、他学科なら受験者の減少が起こらなくても電気電子工学科では起こしてしまうようです。理科1科目でも10年前には1.5倍程度のひどい倍率に落ちてしまった経験があります。入試は教員の誰もが経験しており、歳を取れば子供の一人や二人も入試で悩んでいるので、入試対策は簡単だという教員の油断もあるように思います。また、大学には学科の運営も含めてたくさん業務があり、その中でも入試関係は地味な割にはなんとなく責任が重く敬遠されがちな役割のように感じます。長期間にわたり入試対策に取り組んでいこうという奇特な教員は極めて少ないため、教員が入試対策に強くなるのは簡単なようで難しいようです。このような背景もあり、発言に対する責任も成果に対する報酬もない組織の悪い特徴が今回の入試結果に出たと考えられます。今回の受験者数の激減は、これまでの理科1科目を2科目に変えたためですが、20年度以後、以前の理科1科目に戻すことになりました。筆者のように配点など多くの問題点を改善して理科2科目の継続を唱える者は極めて少数でした。結局、筆者も含めて年配の者は入試のような問題

に口出しするのは良くない、という強い意見が最も年配の教員から出されたのは、自然の成り行きです。入試は学科の存亡がかかる極めて重要な課題になっていくことは避けられません。いずれこれからは、若手教員の考えと責任において入試対策が採られていくこととなります。

学部の入試のみならず大学院の定員を確保するのも難しくなりそうです。博士前期課程（修士課程）は現在毎年30名以上の入学者がおります。確かに定員の3倍程度は採っているのですが大学院での教育に特に深刻な問題はありません。ところが、外部からこの定員オーバーが問題であることが指摘され、定員程度の入学者数に減らす危険が迫っています。指摘している外部には大きな大学も含まれているようです。大きな大学には電気系博士前期課程だけでも200名を大幅に上回る人数を入学させているところもあります。必然的に就職時には優良企業は全員に行き渡りませんからこのような大学は名前ほど学生の評判は良くないようです。つまり、このような大学の教員は、岩手大学の電気電子工学科のようなところが定員以上に入学させているから他大学からの受験者が少なく定員割れを起こしそうになるのだ、と勘違いしているのかもしれませんが。ここでも、教員が入試対策に強くなるのは簡単なようで難しい、ことを感じさせます。日本のような先進工業国は、他の大学から多数の大学院生を集めて教育する少数大学とそれを供給する多数大学でやっていけるわけがありません。岩手大学の電気電子工学科ようなところの大学院定員が少なすぎるところに問題があるのではないのでしょうか。国のことなぞ考えずに学科のことだけ考えても難しい問題です。現在までこれだけの進学希望者がいるのだから心配なさそうに思えます。しかし、競争試験となると学生は就職と試験の失敗を天

秤にかけてくるので、少ない定員だから埋まるとは限りません。

学科改組はどのような展開になるかわかりませんが、前回の平成4年の改組に続き今回も晴天の霹靂でした。前回平成4年の改組に向けて出された案の一つには電気工学科や電子工学科を無くして電子情報工学科にするというものがありました。その他にしっかりと情報工学科も提案されており電気系色の強い学科は全てなくなり情報工学科が2つも出来てしまうのかと愕然としたものでした。今回はこのようなむちゃな案は出されていないものの学科構成員が一様に驚くものでした。今回20年度向けに最初に提案されたのは情報システム工学科と一緒に電子情報工学科案であり、学生定員が100名のものでした。仮にその半分が電気系としてもわずか50名の案といえます。前回の改組ではそれまでの電気工学科40名と電子工学科40名の合計80名の定員が減らされて現在の電気電子工学科60名となったわけですから、平成4年以前から30名減らすことになります。この20年の改組計画では確かに学部全体で30名の定員を博士前期課程に移すので学科ごとに定員が減るのは理解できます。しかし、中には学部定員が増える学科もありました。会員の皆様にはなぜこのような案が平気で出てくるのか不思議に思われる方が多いのではないのでしょうか。筆者は独立法人化後に工学部などに出来た運営委員会という新しい組織に問題が孕んでいるのではないかと考えています。電気電子工学科には運営委員として1人も選ばれていませんから、各運営委員が所属する学科の我田引水的な改組案ができてしまうのではないのでしょうか。電気電子工学科ではこの中で何が話されているか、どのような計画が練られているか、下りてくるまで分かりません。分った時に驚くことになります。そこで困惑と怒りに至るのは、改組に対するいろいろな疑問を質してもすっきりした回答が殆どないためです。例えば、電気電子工学科も情報システム工学科も統合してなんらよ

いことはないことが2つの学科ばかりでなく学部内では広く認識されています。その統合理由は、福祉システム工学科だけを潰すには忍びない、といった程度の回答でした。電気電子工学科のみならず情報システム工学科からもこの最初の改組案に対しては大きな反対意見が出ました。その結果、合わせて120名の定員に増やす代案が出されて少しは改善されていますが、それらの案もはたして最終的にはどのような形に収まるのか予断を許さない状況です。前回の改組でも電気系学科として最低の形を留めることができましたが、今回もはたして弱者を助ける神様が現れてくれるか、藁にもすがる思いです。しかし、この頃はすがると本当に藁みたいのものが多く感じます。前回の改組では、電気電子工学科が犠牲になり改組がなんとか可能になったから博士後期課程ができた、次の改組では電気電子工学科の定員を少なくとも元の規模にしたい、などという話は反故になりかけていると感じます。

今回の改組案は幾つかの大事なことを気付かせてくれました。御承知のように独法化後は地域貢献などが一層声高に叫ばれています。確かに電気電子工学科は就職が良すぎるのでどうしても就職先は関東を中心として全国的にならざるを得ません。それでも、地域貢献と電気電子工学科の縮小を結びつけるのは無理というものでしょう。地域貢献を言いながら、陰では電気電子工学科の縮小案を練る者など、あまり想像したくない方々が学科の周囲をうようよしていることを浮き彫りにしたのが今回の改組案でした。このようなわけで今回はこれまでの近況と異なり楽しくなる報告はできませんでした。来年は次の学科長が間違いなく山ほど楽しい話題を送ることができると信じておりますのでご期待願います。先輩諸兄の皆様には、今後とも一層のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。最後に会員の皆様方のご健勝と一層のご活躍をお祈り申し上げます。

情報システム工学科の近況

情報システム工学科 学科長・専攻長 西 山 清

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、情報システム工学科の近況を紹介致します。今春、情報システム工学科には70名(定員68名)の学生が入学しました。この内の1名はマレーシアからの留学生です。入学式後の各学科での父兄懇談会には、多数のご父母の皆様に参加して頂き、大学への期待の大きさを改めて感じた次第です。入試状況は、この3年間の倍率が1.5倍前後と残念ながら低迷しています。情報系の人気低迷は岩手大学に限るものではなく全国的な傾向です。昨年度の入試では、首都圏の複数の有名私立大学の情報関連学部の応募者が、この3年間で約5割(大学によっては6割)減少したことが大手予備校から報告されています。この原因は少子化やバブル以降の情報通信分野の不況やリストラの影響も考えられますが、一昔前のようなコンピュータやITが最先端技術であると言った印象が薄れていることも一因と考えられます。しかし、これは一方で情報通信技術(ICT)が社会の基盤技術として成熟して来た結果とも言えます。実際、大学院への進学率も年々向上し、本学科では学部学生の40%程度が博士前期課程に進んでいます。

次に、今年度の就職状況ですが、団塊世代の大量退職を控えていることもあり、バブル以来の売り手市場です。特に博士前期課程(修士)修了生の就職は良好で、東芝、三菱電機、三菱自動車、凸版印刷、ヤンマー、ヤフー、ケンウッド、アンリツ、ホーチキなど、東証一部上場企業への就職が好調です。また、学部卒業生を中心に、アイシーエス、システムベース、岩手日報、東北銀行などの地元企業にも多くが就職し

ています。さらに、博士後期課程(博士)修了生の民間企業への就職も好転しており、東芝本社から内定を得ている学生もいます。この傾向は数年続くものと思われれます。

教育面では、平成20年度以降に工学部・工学研究科の大幅な改組が予定されています。これにより、学部定員や大学院定員の見直しが進んでいます。学部では情報システム工学科と電気電子工学科との合併案も提案されています。また、教員は全学的な組織である学系に所属することになり、大学、学部、学科運営が抜本的に再構築されます。

研究面では、科学研究補助費や外部資金の獲得も活発になっており、海外への論文の投稿も増えつつあります。また、この4月には岐阜大学から原美オサマ助手が、徳島大学からはルウ・シン助手が着任し、今後の活躍が大いに期待されています。

また、千葉則茂教授が今年度から岩手大学地域連携推進センター長に就任し、多方面で活躍されています。7月には、岩手大学のOBである産業技術総合研究所の大蒔和仁氏と日立アドバンスデジタルの横浜本部長平島茂氏をお招きし、組み込みシステムに関する講演会を開催しました。学生では、博士前期課程の村木祐太君が第22回NICOGRAPH論文コンテストで審査委員特別賞を授賞しました。

最後に、情報システム工学科一同一丸となって、社会が求める人材育成により一層の努力を重ねて行く所存でおります。今後とも、会員各位のご支援・ご理解のほど宜しくお願い致します。

電気系学科の構成員名簿

電気電子工学科 (学科長 藤原民也 教授)			情報システム工学科 (学科長 安倍正人 教授)		
講座	職 名	氏 名	講座	職 名	氏 名
電子デバイス工学	教授	道上 修	計算機システム学	教授	厚井 裕司
	教授	馬場 守*		教授	西谷 泰昭
	教授	岡 英夫		教授	安倍 正人
	助教	西館 数芽*		助教	鈴木 正幸
	講師	久保田 賢二		助教	永田 仁史
		*フロンティア材料 機能工学専攻所属			平山 貴司
					藤岡 豊太
					佐藤 信
電子システム工学	教授	柏葉 安兵衛	知能システム学	教授	渡邊 孝志
	教授	田山 典男		教授	西山 清二
	助教	恒川 佳隆		助教	三輪 譲
	助教	長田 洋		助教	吉森 久
	助教	大坊 真洋		講師	木村 彰男
		佐藤 宏明	助	中谷 直司	
電気エネルギー工学	教授	藤原 民也	メディアシステム学	教授	千葉 則茂
	教授	山田 弘		教授	今野 晃市
	助教	高木 浩一		助教	李 仕剛
	助教	旗 福寛		講師	藤本 忠博
	助教	成田 晋也		助	荒木 徹
		向川 政治	事務補佐員	懸田 ひかる	
技術部	主任技術専門職員	加藤 昭二	技術部	技術専門員	相馬 孝志
	主任技術専門職員	板垣 稔		主任技術専門職員	吉田 功
	技術専門職員	菊地 新司		技術専門職員	阿部 英志
	技術専門職員	千葉 茂樹		技術専門職員	那須川 徳博
	技術専門職員	太田 康治		技術専門職員	萩原 由香里
	技術専門職員	栗田 宏明		技術職員	庄司 こずえ
			技術職員	福岡 誠	

《支部だより》

平成 18 年度仙台支部総会

平成 18 年度の仙台支部総会懇親会は平成 18 年 7 月 22 日（土）ハーネル仙台で 33 名が参加して開催されました。また昨年につき、当日総会開催時刻前に北山輪王寺で草刈先生の墓参会（6 名参加）を行いました。

総会懇親会には本部から佐々木会長、大学から千葉則茂教授（情報システム工学科）にご出席をいただき科会と大学の現状についてお話を頂きました。

総会では今年度の本部特別施策である支部活性化特別費を有効に活用するため別記の二つの事業が決定しました。

総会に引続き電気 3 回卒千葉二郎会員（東北工業大学客員研究員、元東北大学工学部教授）による「最近の研究から－特に重力場を中心に－」と題して記念講演をいただきました。

その後の懇親会は例年のとおり先輩後輩隔てなく和気藹々の交流が展開されました。

平成 19 年度の総会は 7 月 21 日（土）ハーネル仙台で開催予定です。

I 支部活性化特別費による事業

1. 仙台支部の歩み 作成

科会発足以来本部と一体となって行動してきた支部活動などについて、記録が散逸されないよう掘起し、整理保存して今後の活動に生かす。

2. 定例会員集会の開催

会員が集まる機会を多く設けることによって科会の活性化、会員間の情報交換の活性化、人材育成につなげ、あわせて役員会開催などの経費節減を図る。

開催回数 年 3 回（総会と合すると年 4 回の会合）

プログラム i 話題提供（ミニ講演会
会員持回り）

ii 会員相互近況報告など情報交換

実施体制 定例会員委員会を設置して実施
定例会員集会の開催案内などは

<http://iueeisendai.hp.infoseek.co.jp/index.html>
をご覧ください。



平山典明 柏葉安宏 中村真史 田代良二 板澤正登
電子 2 電電 2 電気 42 電気 29 電子 3

小原左武生 小原四郎 横井哲夫 浦田 寛 浦山郁夫 藤原昭二 小原 典 佐藤 晃 久保喜紀 吉田浩士 千葉浩克 阿部紀行 佐藤雄一郎 野坂武弘
電気 10 電気 10 電気 16 電気 11 専門 8 専門 7 専門 7 電子 1 電気 10 電電 2 電気 13 情報 15 電気 39 電気 16

小林栄松 菅原正三郎 吉村 光 齊藤 健 千葉二郎 佐々木喜八郎 千葉茂則 阿部源祐 千葉智行 佐藤純一 鈴木辰三 島山修一
電気 6 電気 8 電気 7 電気 11 電気 3 会長 先生 専門 1 電気 1 専門 6 専門 7 情報 24

平成 18 年度 岩手大学電気電子情報科会 仙台支部総会

平成 18 年 7 月 22 日
ハーネル仙台

平成 18 年度東京支部大会

東京支部長 澤 藤 隆 一



今年の東京支部大会は電気電子情報科会総会東京開催と併せて平成 18 年 6 月 10 日(土)アルカディア市ヶ谷で行い、89 名の参加でした。前の東京開催は平成 14 年 6 月 1 日(土)霞ヶ関ビル 33F の東海

大学校友会館で 72 名の参加でした。本来 6 年に 1 度の東京開催ですが、草刈先生ご生誕 100 年記念行事の関係で間が詰まりました。連絡が遅くて、もう予定を入れていたとかの苦情もあり反省しております。ホームページのような片側通行の手段では限界があります。やはり本部→学年幹事→同期生という垂直+水平のプラス型連絡網を整備しないとイケません。大会では

- 1) 支部長挨拶・活動報告
- 2) 会計報告(平成 16 年～17 年度)
- 3) 会計監査報告
- 4) 規約改正(案)・次期役員(案)

を審議し、いずれも提案通り承認されました。主たる改訂は

- ① 役員幹事に事務局を加える
- ② 役員幹事の任期を 4→2 年とし、1 年毎改選とする
- ③ 支部大会開催間隔を 2 年→1 年とするという点です。隔年開催では間延びするので会員交流を活発化しようという主旨ですが、懇親会費を 1 万円→8 千円とダウンしてなるべく多くの方に集まって頂くことを狙いました。役員体制は

支部長 澤藤隆一(再任 電気 47 年)
副支部長 山田 均(再任 電気 47 年)
山内利明(再任 電気 55 年)

柴田隆昭(新任 電気 37 年)
山口 裕(新任 電子 48 年)
会計 島山 主(再任 情報 54 年)
会計監査 寺井正行(再任 電気 41 年)
事務局 飛世政和(再任 電気 44 年)
と二名増。副支部長にベテランと中堅を追加して、年代層や学科に配慮し、コミュニケーションの円滑化を図りました。

講演会は『光から電気へ、電気から光へ』という題で柏葉安兵衛先生にお願いしました。大々的に報道された酸化亜鉛(ZnO)を使った青色 LED の量産化可能な方法の開発成功に関連したお話を、大学の歴史や学生時代の写真、チャグチャグ馬この写真などをまじえながら柔らかくお話頂きました。また中村修二さん(現カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授)はじめ徳島大学卒業技術者が圧倒的多数を占める異色の企業日亜化学が化合物半導体分野で大きな利益を上げていることに関連して、酸化亜鉛 LED が実用化されたときの大きなインパクト、夢も語られました。この講演があったので広い年代層に参加頂けたと思います。

平成 19 年も東京支部では学年幹事を組織して楽しい集まりを企画します。どうぞご期待ください。またご協力のほどお願い申し上げます。各種情報は支部ホームページで…広告をカットし、サーバーの容量を増強しました。今回も一祐会在京他支部：東京金属物性科会、東機会、きたかみ会からご来賓の出席を頂き、相互交流して各支部総会の模様をホームページに掲載し、各科の会員の皆様にご案内しています。あたかも一祐会東京支部のホームページの如き役割を果たしたいと考えます。検索エンジンで IUEEITOKYO と入力して下さい。

《支部だより》

平成 18 年度盛岡支部総会

盛岡支部平成 18 年度総会は、平成 18 年 7 月 8 日 18:00 より、盛岡市「エスポワールいわて」に於いて開催されました。出席者は 16 名でしたが、イベントとして行った「鎌田徳美先生・入江泰先生の思い出を語る会」には、出席した皆様からエピソードを交えたお話があり、和気藹々とした雰囲気の中で盛会におわりました。

総会は長田洋会員の司会で進行し、歳弘健盛岡支部長のあいさつ、佐々木喜八郎科会会長の祝辞のあと議事に入りました。平成 17 年度は体制固めということで実施事業はなく、平成 18 年度は本部から支部活性化特別費として 10 万円配布を受けて、新事業として①HP の開設、②幹事の勧誘、③学生の総会出席会費の無料化、④職場単位での勧誘を積極的に行うものとし、さらに見学会を実施することが承認されました。役員については八重樫啓一理事の逝去（平成 18 年 6 月）に伴い、旗福寛氏を理事に推挙し承認されました。

なお、千葉則茂先生が大学代表の副会長（科会本部）に就任されスピーチをお願いしましたので次に記します。また「鎌田徳美先生・入江泰先生の思い出を語る会」の収録は別項に掲載しましたのでご覧下さい。
(歳弘 健)

大学情報：千葉則茂先生（電気電子情報科会副会長）

此のたび副会長を仰せつかりましたのでよろしくお願い致します。まず、大学の情報をお話いたしたいと思います。私 4 月から大学の方で地域連携推進センター長をやらされております。当センターは、法人化と共に、従来の技術移転や共同研究を推進する地域共同研究センターと、生涯学習教育研究センター、地域共同研究センター、機器分析センター、またインキュベーションラボ機能を統合して設置されたものであり、その後さらに地域司法機能を拡張してきております。いわゆる岩手大学と地域との連携を推進するための総合窓口を担当する部局であります。

工学部に関係する最近の話題としては、北上市、奥州市との連携で、それぞれ「金型技術研究センター」と「鋳造技術研究センター」が設置されております。さらに近々花巻市との連携で「複合デバイス技術研究センター」が設置される予定です。またこれらを統合して「融合化ものづくりセンター」とし、地域と連携した革新的なものづくり技術の開発を進める計画で

す。また、現在盛岡市が当センターに隣接して「盛岡市産学官連携研究センター」を建設しており、来年度より本学との連携で、大学発ベンチャーの育成や本学と共同研究を行う企業の研究開発センターとして活用していただくことになっております。

話は変わりますが、同窓会については、同窓生である教員の減少とともに、学生には同窓会そのものが見えていないと思います。入学前に会費を支払わされたという悪い印象があるのみで繋がりがわからないと思います。それをどう繋ぐかは、例えば、社会へ出て活躍している卒業生の方々に大学にお出で頂き、学生向けの講演会を開くなど、同窓生の存在を学生に見えるようにしていくのが良いのかなと思います。学生にとっても同窓生にとっても、同窓生や大学の互いの活躍を知ることはお互いに大変刺激になり同窓の意識を高めていくことに繋がることと思います。

今後益々、大学はやはり同窓会との関係は深くしていかなければならないと思いますので、今後ともご協力をお願い致します。

鎌田徳美先生・入江 泰先生の思い出を語る会

はじめに先生方のお写真、御経歴など30枚ほどを編集したプレゼンテーションを作成し、スライドショーを行いました。その後座談会形式で、思い出を語り合いました。

鎌田徳美先生の思い出



鎌田徳美先生 御経歴

明治 35 年 2 月 12 日 青森県青森市にて出生
大正 8 年 3 月 青森中学校卒業
大正 11 年 3 月 仙台高等工業学校電気工学科卒業
大正 14 年 6 月 仙台高等工業学校助教授
昭和 14 年 6 月 盛岡高等工業学校助教授
昭和 16 年 6 月 同校 教授
昭和 25 年 5 月 岩手大学発足 工学部助教授
昭和 38 年 4 月 岩手大学工学部教授
昭和 42 年 3 月 岩手大学定年退官
退官後 青森中央短期大学教授

表彰

昭和 42 年 7 月 消防庁長官賞
昭和 44 年 7 月 内閣総理大臣賞
昭和 46 年 4 月 岩手県危険物協会連合会会長賞
昭和 46 年 7 月 岩手県警察本部長賞
昭和 48 年 11 月 日本電気協会「渋沢賞」
昭和 53 年 11 月 労働大臣賞

叙勲

昭和 15 年 7 月 勲八等瑞宝章
昭和 19 年 3 月 正六位勲六等瑞宝章
昭和 53 年 11 月 正四位勲三等瑞宝章
昭和 53 年 11 月 18 日 ご逝去 行年 76 歳

山崎時男；昭和 14 年に盛岡高等工業が発足しましたが、鎌田先生が最初にいらして 4 月に入学試験を行いました。6 月に入学式を行いました。その時に草刈先生がいらっしゃいました。翌 15 年春に入江先生が赴任されました。この 3 人のお先生だけは、その後定年までお勤めになられました。

佐々木喜八郎；鎌田先生の講義の時の黒板は英語のスペルで一杯でした。

高木三郎；私が弘前の高工へ就職したとき、他の先生のものには無いのに、何故か鎌田先生のノートだけがありました。そこで先生の真似をして黒板に英語を書いて見ましたら、非常に評

判がよく面目をほどこしたことがありました。

山崎時男；鎌田先生は英語に堪能で進駐軍の通訳をされておりました。また、電気製図を担当されており、校章、襟章、校旗の図案化をしました。科会旗も先生の手によるものです。また、先生は温厚で、教育熱心で社会貢献、特に消防では電気火災に大いに尽くされました。

小野寺瑞穂；博学な鎌田先生は社会的にも人気があり、特に当時鑑識のお仕事だったのか、電気火災の検証に携わっておられました。火災が発生した翌日は、多忙で休講になるかと期待したものでした。授業があっても“昨日の火事は…？”と火事場ならずとも水を向けると

火災状況や原因を滔々と話される事もありました。学生の面倒見もよく「カマちゃん」の愛称で慕われ、また博識者として社会的にも著名であったと思われます。

佐々木喜八郎；卒業後同級生が集まると、しょっちゅう鎌田先生のお宅にお邪魔しておりました。私どもがお邪魔したとき写真を撮ってきましたが、高級ウイスキーなどで歓迎してくれました。奥さんが綺麗な方でしたね。

細川哲男；私の父が青森中学で鎌田先生と同窓だった関係で、よく可愛がってもらいました。卒業してから正月2日は同級会で集まって、その後先生の家によく押しかけたものです。奥さんが綺麗な人で、また娘さんが3人おりました。それを目標に行ったものですが誰も射止められなかった。先生のお宅へお邪魔したのは、我々だけかと思っていましたが皆さんも行っておられたのですね。

小沢甚一郎；私が昭和51年2月に岩手医大で胃がんの手術で入院していたところ、その1ヶ月後に鎌田先生が膵臓がんで入院された。そこで先生のところへお見舞いに行って「先生、悪いところを切れば、若返って長生きしますよ」と言いましたら先生は非常に喜びましたね。その後秋田の娘さんのところで3年ぐらい入院されていたようです。

私が東北電力におったとき、八戸でテレビのサテライトの送信アンテナの前に送電線があって雑音が入って大変でした。そこで鎌田先生のところへ相談に行って、その指導のもとに送電線の金具を溶接で固定したところ、雑音がぴたっと収まり問題を解決しました。これにより東北電波管理局長賞をもらったと記憶しております。

佐々木喜八郎；鎌田先生がスケート国体のフィ

ギュアの県監督だったのをご存知ですか、八戸の第6回のスケート大会で、先生が監督で私が選手でした。

山崎時男；戦後盛岡でスケート国体が行われました。当時は冬季国体ではなく、スキーとスケートはそれぞれが別々に行われていました。初めは高松の池ではなかったかと思われませんが、立て続けに盛岡で行われました。上田の大学グラウンドに水を張ってスケートリンクを作りました。当時陸上にリンクを作るということは画期的なことで、鎌田先生が製作管理を担当しましたね。佐々木喜八郎さんはフィギュアの岩手県代表でプレーしていました。

太田原 功（欠席、コメント寄稿）

鎌田先生の思い出；

どんな話でも黙って聞いてくださる先生でしたので折にふれてお邪魔して愚痴を聞いて頂きました。

授業の際には必ず上下揃いのスーツにネクタイをキチンと締めておられました。雰囲気とニオイから2日酔いとわかる朝の1時間目の授業であっても、常に身だしなみを整えていたことは、講義マナーの模範として私も実行に努めています。

泊りがけの宴会には必ず、愛用の和服を持参し着用しておられました。私は和服を持っていないので、真似は出来ませんが、素晴らしい身だしなみでした。

ウイスキーの味を知らなかった頃のこと、先生のお宅にお邪魔したとき、大切に保存していた高級ウイスキー「ブック？」の味を知り、空にしたことは未だに申し訳ない気持で一杯です。日本酒は舌の上で転がしてから飲み込めと教わり、真面目に守っています。

入江 泰先生の思い出



入江 泰先生 御経歴

明治 41 年 3 月 23 日 福島県にて出生
大正 14 年 3 月 仙台第一中学校卒業
昭和 5 年 3 月 山形高等学校卒業
昭和 8 年 3 月 東北帝国大学工学部電気工学科卒業
昭和 8 年 4 月 台南高等工業教員拝命
昭和 15 年 4 月 盛岡高等工業教授で赴任
昭和 24 年 5 月 岩手大学発足同工学部助教授
昭和 35 年 4 月 岩手大学工学部教授
昭和 42 年 4 月 岩手大学評議員
昭和 46 年 11 月 岩手大学工学部長
昭和 48 年 4 月 岩手大学定年退官
昭和 48 年 4 月 八戸工業大学教授
昭和 52 年 11 月 24 日 ご逝去
同日 叙勲 従三位勲二等瑞宝章

山崎時男；入江先生は理論家、情熱家でした。盆栽が好きで入江先生のご退官記念に電気科の玄関先に皆で石庭を作りました。今でもありませんね。入江先生は初め発送配電をやっておりましたが、トランジスタが普及し始めてから電子工学の方へ移りました。

入江先生はテニス、野球などをやっていました。当時盛岡では工専、農専、師範、医専の4校で野球のリーグ戦をやっていました。22年ごろ当時医専が強かったのですが、私が3年生の時優勝しました。その頃入江先生は随分野球に肩入れしていましたね。その後スキーやテニスをやるようになったと思います。

細川哲男；入江先生は声が大きく、いろいろとお叱りを受けた記憶があります。同級生の太田圭一さんから一言言伝がありますのでご紹介します。太田さんが高校の先生になって、電気系の授業を受け持つことになり、4ヶ月間母校へ内地留学した折、入江先生に弱電を教えてください、非常にその後の授業に役にたったと感謝しております。入江先生はもともと弱電専攻で

したが、赴任当初は強電を自分で勉強しながら学生に教えていたようです。

小野寺瑞穂；私たちは先生と友達みたいな付き合いはありませんでした。ちょっと気むずかしく思われ、私は近寄り難く思えました。私が県内希望の就職先が決まらないまま卒業が近づいたある日、廊下でお会いした先生が急に私に近寄り、強く手を握りしめ、「大丈夫だ。君のことは、僕も先生方皆応援しているからな」と涙を浮かべて励ましてくれました。講座も違う先生に励まされ感動しました。非常に情熱的な先生でしたね。

柏葉安兵衛；入江先生には電子工学を教えていただきました。当時は、後にノーベル賞を受賞した江崎玲於奈さんが「エサキダイオード（トンネルダイオード）」の論文を発表して間もなかったのですが、入江先生はその論文を授業に取り入れて詳細に説明してくださいました。翌年の東北大学大学院の入試にこの「江崎ダイオード」が出題されましたが、お蔭さまで解答することが出来、入学することが出来たと感謝

しており、思い出として強烈に残っています。
齊藤 弘；私が卒業研究の時に、入江先生はトランジスタを8個購入して、そのうち6個を卒業研究に使わせてくれました。トランジスタの作動増幅器、直流増幅器の温度特性の改善を研究することになりました。これはNHKの電波が強いと測定出来ず。放送が終わった後の真夜中に測定を行いました。卒業研究はうまく行きまして先生からもよくやったとお褒めの言葉を頂ました。私は一旦民間に就職したのですがまた大学へ戻って教職に就きました。入江先生は大変きついことをおっしゃるのですが、よく面倒をみてくれました。また自宅へも呼ばれてご馳走になりました。ご退官される前に印象深いお言葉は、「家を建てるのは若いうちにおやりなさい。いま私は家を建てるのですが、面倒くさくってこれじゃろくな家を作れそうにない。」とおっしゃられておりました。御退官後その家に住まわれて、何年もしないで倒れられましたね。

佐々木喜八郎；昭和23年9月カザリン台風に襲われまして、一関が大洪水により被害を受けたのですが、当時我々学生は応援に行こうではないかと言うことで、体育館に急遽集まりまし

た。このことを聞きつけた学校当局は当惑し、学生を制止すべく入江先生が駆けつけて来られて「学期末試験を目の前にして何事か、君たちは学業を本分としているのではないか、お前たちの情熱はドンキホーテの情熱に等しい。」と一人皆の前に立ちはだかつて制止したのでした。結果的には学校の許可をもらい、約一週間一関に救援に行きまして後片付けなどを手伝いました。

太田原 功（欠席、コメント寄稿）

入江先生の思い出；

入江先生は理詰めでない話には中々乗らない先生でした。

学生の氏名を覚えようとしなないことも特徴の一つでした（お前が何故「〇〇」であるか理由が無いから、が口癖）。職員としてお手伝いするようになって中々私の名前を覚えて頂けませんでした。

100 mほどのご近所に住むようになった頃の或る日、突然防虫剤散布器を持って来られて、防虫液が余ったからと言いつつをされながら、拙宅の家庭菜園に防虫剤を散布して下さって恐縮したことがあります（暖かい人情家でもありました）。



※座談会には欠席しましたが後で投稿してきました※

鎌田先生の思い出

電1回 阿部源祐

鎌田先生の思い出は私としては沢山あるような気がする。しかし紙面の都合もあるだろうから幾つか挙げることにしよう。

その1 鎌田先生と最初に会ったのは僕等だ！

鎌田先生と最初にお会いしたのは電気科第1回生のうち入学試験を盛岡会場で受験した僕等だ。その時の面接試験の担当が鎌田先生であった。その為か入学後も何となく親しみを感じる気がした先生でした。

その2 英語が得意な先生！

最初の授業の時に英語で書かれたガリ版刷りの教材を渡され、ペラペラと講義を始めたのは驚かされた。またガリ版作成はご自分であると聞き感心したものだ。最初の試験のときに英文で問題を出された時は、その問題を訳すのに時間が掛かり更に驚いたものだった。余りにも英語が達者なので、学生の中に先生はなぜ「英語が得意だろう」という話が囁かれたものでした。

その3 天神町のお宅も、若園町のお宅も卒業生と学生で賑やかでした！

私も盛岡に転勤になってからは、よく先生のお宅にお伺いし御指導を仰ぎました。特に正月などは卒業生、学生が沢山押しかけておったようです。その賑やかな声が近所一帯に響いたとの噂があるくらいでした。

その4 科会の会合には喜んで毎回出席する先生でした！

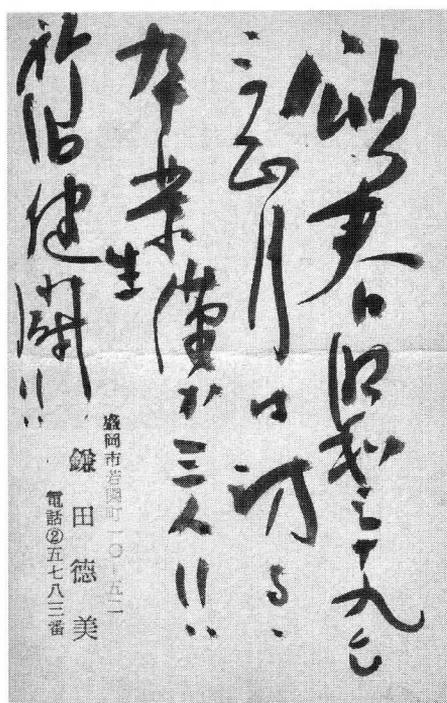
先生は電気科会の総会には必ず出席され、二次会までも快く付き合ってくださいました。和服でキャバレーに行き、楽しそうにダンスを踊られてお出でになった姿が思い出されます。科会の総会で思い出されることで忘れられないことがあります。それは総会のあと大分気分よく酔われたので、二三人でお宅までお送りしたとき、玄関で寝てしまったので中にお連れしようとしたら、奥さんが「酔いが醒めると起きるからそのままでよい」と言われるのでその晩は帰ったが、心配なので次の日の午後にお伺いしたら、前夜の罰則として「薪割り」をされているところでした。奥さんが「お弟子さん達が来ましたよ」と告げられると、良いところに来たと喜んで「薪割り」を止めてこられたのが思い出されます。しかも昨夜の続きだといって、またお酒

をご馳走になって帰りました。

その5 子供さんたちに良く恵まれた先生でした！

先日の盛岡支部の「鎌田先生の思い出を語る会」でお嬢さん達の話が出ておったようですが、長女の方は横手のお医者さんに嫁がれたし、次女の方は東大出の国鉄のキャリア組（最後は常務理事）に嫁がれたようです。三女の方は正月にお邪魔したとき丁度ご夫婦で来られており、ご挨拶を受けて驚いたことに、ご主人の方は私と中学同期でまた電気科第1回卒業生で戦死した小原君の弟さんでした。そのご長男の方も岩手大学を卒業されNECで活躍されておったようです。

鎌田先生の思い出はまだまだ尽きませんがこの辺で筆を閉じる事にします。



鎌田先生は卒業生が訪ねて来るのが本当に楽しみのようでした。珍しく昭和39年のお正月は卒業生の訪問が少なかったようです。その時の年賀状です。

平成 18 年度電気電子情報科会総会

東京支部長 澤 藤 隆 一

東京での電気電子情報科会総会は6年に1度ですが、草刈先生のご生誕100年記念事業に併せて仙台で行われた総会との関係で前回から4年後の開催となりました。佐藤先生の叙勲祝賀会から半年後、平成18年6月10日(土)同会場のアルカディア市ヶ谷(私学会館)で行いました。思いのほか直前申し込みが多かった上に当日キャンセルゼロ、当日参加2と合計89名の盛会となりました。東京支部大会との併催のため来賓挨拶が多過ぎるとか、席次表の準備を忘れるとかいろいろ失敗がありました。

一祐会会長に就任された太田原 功先生(岩手県立大学副学長)も見えました。柏葉安兵衛先生と篠福 寛先生もめでたくご退官されご挨拶をいただきました。菊池昭雄氏(電気2・

S29)が平成17年秋の叙勲で旭日小綬章に輝いたお祝いも行いました。恩師を囲み、同期や先輩、後輩と再会を喜ぶ楽しい会でした。

講演会は『光から電気へ、電気から光へ』という題で柏葉安兵衛先生にお願いしました。酸化亜鉛(ZnO)を使った青色LEDの量産化可能な方法の開発成功の関連をわかりやすくお話いただき、この講演があるために集まった若手も多く、広い年代層に参加頂きました。

懇親会は電気電子工学科長の代理で藤原民也教授、情報システム工学科長の西山 清教授、他会からのご来賓もまじえて盛大に行われ、余勢を駆って2次会になだれ込みました。

関連する内容は「支部だより」でも報告していますのでご覧ください。



参加者多く2回に分けて撮影しました。東京支部ホームページにも掲載

平成 18 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日 時：平成 18 年 6 月 10 日（土）15：40～
場 所：アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区）
出席者：89 人

1. 開会

2. 会長挨拶 佐々木喜八郎会長

3. 議長及び書記選出

議長：澤藤隆一（電気 S47 年卒業）

書記：下田喜美雄（電気 S47 年卒業）

4. 議事

第 1 号議案 平成 17 年度事業報告

第 2 号議案 平成 17 年度決算報告

事務局より上記 2 議案の報告の後、旗福寛
会計監査より「会計監査の結果、適性かつ正
確であったことを認める」旨の報告があった。

その後、2 議案を一括審議し、異議なく拍
手で承認された。

第 3 号議案 平成 18 年度事業計画（案）

第 4 号議案 平成 18 年度予算（案）

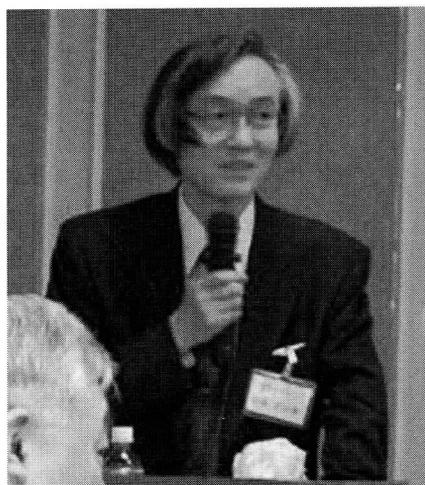
事務局より上記 2 議案の説明があった後、
一括審議した。異議なく、拍手で承認された。

第 5 号議案 平成 18 年度役員選出（案）

事務局より配布資料に基づいて説明があ
り、柏葉安兵衛氏が大学退職により副会長か
ら理事に。新副会長に、千葉則茂氏という案
が提出され、異議無く、拍手で承認された。

5. その他 特になし。

6. 閉会（16：05）



講演会「光から電気へ 電気から光へ」
講師 柏葉安兵衛先生



菊池昭男氏（電気 2 回 S29 年卒）
「旭日小綬章」に輝く “おめでとうございます”



こ～んなに集まりました

平成 18 年度電気電子情報科会役員名簿

(平成 19 年 1 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)	勤 務 先	電 話	
会 長	佐々木 喜八郎	昭 28 (気 1)		019-654-1265	再任
副 会 長	南 幅 留 男	45 (子 1)	岩手県工業技術センター	019-635-1115	再任
〃	千 葉 則 茂	50 (気 23)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6465	新任
〃	鳥谷部 達 雄	56 (情 3)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
理 事	小野寺 瑞 穂	29 (気 2)		019-647-4727	再任
〃	関 享 士 郎	34 (気 7)		019-662-2092	再任
〃	柏 葉 安兵衛	38 (気 11)	岩手大学地域連携推進センター	019-621-6388	新任
〃	井 上 隆 志	40 (気 13)		019-622-3497	再任
〃	田 山 典 男	41 (気 14)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6382	再任
〃	塚 本 英 雄	45 (気 18)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
理 事・事 務 局	柳 橋 好 子	45 (子 1)	岩手県地域婦人団体協議会	019-648-6620	再任
理 事・事 務 局	長 田 洋	62 (気 35)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6381	再任
理 事・事 務 局	木 村 彰 男	平 3 (情 13)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6488	再任
理 事・盛岡支部長	歳 弘 健	33 (気 6)		019-663-1284	再任
理 事・東京支部長	澤 藤 隆 一	47 (気 20)	三基計装(株)	048-422-9201	再任
理 事・仙台支部長	齋 藤 健	38 (気 11)	大和電設工業(株)	022-216-3111	再任
会 計 監 査	及 川 二千朗	38 (気 11)		0197-65-5881	再任
〃	籙 福 寛	38 (気 11)		019-635-4239	再任
顧 問	佐 藤 淳	特別会員		019-662-4563	再任
〃	志 田 純 一	〃		019-641-1203	再任
〃	佐々木 經 夫	〃	オーミ塗装工業	019-641-3355	再任
相談役 (元会長)	阿 部 源 祐	16 (専 1)		022-273-0072	再任
〃	佐 藤 源 美	17 (専 2)		019-647-8271	再任
〃	高 木 三 郎	17 (専 2)		019-662-1198	再任
〃	岡 田 整 八	18 (専 3)	岡田電気(株)	019-635-1225	再任
〃	小 沢 甚 一 郎	18 (専 3)	自由業	019-663-4424	再任

役職名	氏名	卒業(卒回)	勤務先	電話	
相談役(元会長)	阿部長一	19(専4)		019-662-3324	再任
〃	細川哲男	24(専8)		019-623-7776	再任
〃	太田原功	30(気3)	岩手県立大学宮古短期大学部	0193-64-2230	再任
幹事	村上佳次	昭20(専5)	東北有放興業(株)	019-622-6777	再任
〃	和田守之助	25(専9)	和田酒店	019-622-2422	再任
〃	金孝博	32(気5)		019-654-9351	再任
〃	庄子幸男	39(気12)	横河電子機器(株)	019-638-5211	再任
〃	外川俊隆	41(気14)		019-647-2302	再任
〃	久保田賢二	42(気15)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6385	再任
〃	平孝清	43(気16)	岩手医科大学	019-651-5111	再任
〃	宮手敏雄	44(気17)	岩手日報社	019-653-4111	再任
〃	池野正樹	46(子2)		019-662-6745	再任
〃	菊池政四	47(気20)	(株)川徳	019-651-1111	再任
〃	岡英夫	48(子院4)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6389	再任
〃	杉村洋一	49(子5)	いわて生協	019-687-1441	再任
〃	池内達	50(子6)	岩手県企業局	0197-74-2141	再任
〃	今野幸洋	53(気26)	盛岡市役所	019-651-4111	再任
〃	千枝泰航	54(情1)	岩手県庁	019-651-3111	再任
〃	野崎明裕	55(気28)	岩手県庁	019-651-3111	再任
〃	藤尾勉	56(子12)	岩手県企業局	019-661-4290	再任
〃	佐藤信	57(子13)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6470	再任
〃	大沢崇	59(情6)	(株)グレープシステム	019-635-0601	再任
〃	佐藤文昭	59(子15)	(株)IBC岩手放送	019-623-3119	再任
〃	泉澤栄	60(子16)	盛岡セイコー工業(株)	019-692-3511	再任
〃	立花龍一	61(情8)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
〃	高橋康浩	62(気35)	岩手県警察本部	019-653-5151	再任
〃	佐々木真嗣	62(子18)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
〃	千葉明嗣	63(情10)	盛岡市水道部	019-623-1411	再任

年会費納入表

平成 19 年 1 月末現在

卒業年	電 気				電 子				情 報				卒業年
	卒業者数	請求者数	納入者数	納入率(%)	卒業者数	請求者数	納入者数	納入率(%)	卒業者数	請求者数	納入者数	納入率(%)	
S16	32	13	8	61.5	-	-			-	-			S16
S17	73	20	7	35.0	-	-			-	-			S17
S18	71	27	11	40.7	-	-			-	-			S18
S19	73	32	14	43.8	-	-			-	-			S19
S20	79	34	14	41.2	-	-			-	-			S20
S21	1	0	0	0.0	-	-			-	-			S21
S22	82	48	27	56.3	-	-			-	-			S22
S23	85	56	28	50.0	-	-			-	-			S23
S24	35	24	14	58.3	-	-			-	-			S24
S25	25	15	7	46.7	-	-			-	-			S25
S26	11	8	2	25.0	-	-			-	-			S26
S27	-	-		0.0	-	-			-	-			S27
S28	24	18	13	72.2	-	-			-	-			S28
S29	22	13	11	84.6	-	-			-	-			S29
S30	23	17	9	52.9	-	-			-	-			S30
S31	33	24	12	50.0	-	-			-	-			S31
S32	34	23	12	52.2	-	-			-	-			S32
S33	35	27	14	51.9	-	-			-	-			S33
S34	25	22	14	63.6	-	-			-	-			S34
S35	32	26	15	57.7	-	-			-	-			S35
S36	34	23	8	34.8	-	-			-	-			S36
S37	43	37	25	67.6	-	-			-	-			S37
S38	35	28	22	78.6	-	-			-	-			S38
S39	41	31	17	54.8	-	-			-	-			S39
S40	61	46	21	45.7	-	-			-	-			S40
S41	67	46	20	43.5	-	-			-	-			S41
S42	54	45	22	48.9	-	-			-	-			S42
S43	55	40	16	40.0	-	-			-	-			S43
S44	74	53	18	34.0	-	-			-	-			S44
S45	51	39	15	38.5	47	35	8	22.9	-	-			S45
S46	44	35	15	42.9	43	30	7	23.3	-	-			S46
S47	35	31	10	32.3	44	29	10	34.5	-	-			S47
S48	36	23	7	30.4	36	28	11	39.3	-	-			S48
S49	36	20	10	50.0	35	16	6	37.5	-	-			S49
S50	33	31	14	45.2	35	19	4	21.1	-	-			S50
S51	37	31	7	22.6	38	21	6	28.6	-	-			S51
S52	39	29	10	34.5	32	19	4	21.1	-	-			S52
S53	33	25	4	16.0	44	25	5	20.0	-	-			S53
S54	42	23	5	21.7	38	25	7	28.0	37	28	2	7.1	S54
S55	31	23	2	8.7	32	21	5	23.8	32	22	3	13.6	S55
S56	37	29	8	27.6	43	27	7	25.9	39	28	7	25.0	S56
S57	36	34	4	11.8	31	18	7	38.9	43	35	7	20.0	S57
S58	40	24	2	8.3	37	23	4	17.4	31	22	1	4.5	S58
S59	29	20	2	10.0	23	14	5	35.7	37	20	2	10.0	S59
S60	35	22	6	27.3	34	19	1	5.3	44	29	6	20.7	S60
S61	40	31	5	16.1	43	35	4	11.4	36	17	3	17.6	S61
S62	35	27	9	33.3	39	26	3	11.5	28	17	2	11.8	S62
S63	33	22	6	27.3	23	19	4	21.1	40	29	3	10.3	S63
H01	27	24	2	8.3	33	21	2	9.5	36	27	6	22.2	H01
H02	43	38	6	15.8	42	36	5	13.9	33	20	0	0.0	H02
H03	46	35	4	11.4	48	35	4	11.4	45	37	3	8.1	H03
H04	48	26	2	7.7	47	36	4	11.1	38	28	7	25.0	H04
H05	48	42	8	19.0	44	26	4	15.4	50	42	1	2.4	H05
H06	40	36	5	13.9	44	36	7	19.4	45	38	3	7.9	H06
H07	48	45	1	2.2	52	37	5	13.5	47	42	1	2.4	H07
H08	67	56	4	7.1	-	-		0.0	59	50	2	4.0	H08
合計人数	2328	1617	573	35.4	1007	676	139	20.6	720	531	56	10.5	合計人数

平成 8 年まで (学部卒業生)

全卒業者数	全請求者数	全納入者数	納入者 / 請求者	納入者 / 卒業者
4055	2824	768	27.2%	18.9%

教職員	大学院
3	1

年 表

電 気 系 学 科 年 表 自 平成 18 年 2 月 至 平成 19 年 1 月	電 気 電 子 情 報 科 会 年 表 自 平成 18 年 2 月 至 平成 19 年 1 月
平成 18 年 (2006 年)	平成 18 年 (2006 年)
2/3 最終講義《電気学会東北支部学術講演会》(17 番講義室)。「光から電気、電気から光を - 太陽電池と発光ダイオードの研究 -」, 柏葉安兵衛教授	
2/7 入学願書受付締切. 電気電子工学科: 前期 1.0 倍, 後期 5.1 倍, 情報システム工学科: 前期 1.4 倍, 後期 5.5 倍	2/7 「きたかみ」編集委員会 (岩手大学工学部電気電子工学科会議室)
2/8-9 平成 18 年度大学院工学研究科博士前期課程第 2 次入学者選抜試験. 電気電子工学専攻 4 名合格, 情報システム工学専攻 6 名合格	
2/10 平成 18 年度大学院工学研究科博士後期課程第 2 次入学者選抜試験. 電子情報工学専攻 5 名合格	
2/17 修士論文審査会 (電気電子工学専攻)	
2/20 修士論文審査会 (情報システム工学専攻)	
2/23 卒業研究発表会 (情報システム工学科)	
2/25 平成 18 年度個別学力検査(前期日程)	
3/1 卒業研究発表会 (電気電子工学科)	3/1 「きたかみ」52 号発行 4800 部
3/8 前期日程合格者発表. 電気電子工学科 40 名, 情報システム工学科 48 名	3/6 新入会員歓迎会打ち合わせ (岩手大学工学部電気電子工学科会議室)
3/12 平成 18 年度個別学力検査(後期日程)	
3/22 後期日程合格者発表. 電気電子工学科 7 名, 情報システム工学科 13 名	3/14 新入会員歓迎会 (岩手第一ホテル)
3/23 岩手大学卒業式 (岩手県民会館). 工学部第 54 回卒業生: 459 名 (電気電子工学科 69 名, 情報システム工学科 64 名, 情報工学科 2 名)	参加者 46 人 第 3 回草刈賞受賞者紹介
3/31 大学院工学研究科博士前期課程第 37 回修了生: 201 名 (電気電子工学専攻 33 名, 情報システム工学専攻 36 名) 大学院工学研究科博士後期課程第 8 回修了生: 9 名 (電子情報工学専攻 0 名)	
電気電子工学科 柏葉安兵衛 教授 定年退職 電気電子工学科 旗福 寛 助教授 定年退職 技術部 加藤昭二 主任技術専門職員 定年退職	

4/1	技術部 吉田 功 主任技術専門職員 定年退職	
4/7	原美オサマ, 盧忻 (ルウシン) の両氏 を情報システム工学科助手に採用	
5/17	岩手大学入学式 (岩手県民会館). 工学部入学者: 469 名 (電気電子工 学科 70 名, 情報システム工学科 70 名) 3 年次編入学生: 電気電子工学科 8 名, 情報システム工学科 5 名	
5/29 ~	大学院工学研究科博士前期課程入学 者: 224 名 (電気電子工学専攻 38 名, 情報システム工学専攻 27 名)	
6/1	大学院工学研究科博士後期課程入学 者: 17 名 (電子情報工学専攻 7 名)	
6/8	計測自動制御学会東北支部第 228 回 研究集会 / INS 電子デバイス研究会 第 32 回講演会 (一祐会館)	5/23 電気電子情報科会会計監査 (岩手大学工学部電気電子工学科会議 室)
6/9-10	電気電子工学科ソフトボール大会 開学記念日	5/27 平成 18 年度第 1 回理事会 (国保会館) 出席者 11 人
6/23	平成 19 年度推薦編入学試験. 電気電 子工学科 3 名合格, 情報システム工 学科 1 名合格	平成 18 年度総会にむけて 議案書の審議 総会の役割分担等
6/24	新入生宿泊研修 (国立岩手山青少年 交流の家)	6/10 東京支部大会 (アルカディア市ヶ谷)
7/7	岩手大学 COE セミナー《電気学会 東北支部学術講演会》(岩手大学図書 館セミナー室). 「パルスパワー技術 開発と産業応用」, 秋山秀典氏 (熊本 大学大学院自然科学研究科 教授)	6/10 電気電子情報科会 18 年度総会 (アルカディア市ヶ谷) 出席者 89 人 17 年度事業報告 17 年度決算報告・監査報告 18 年度事業計画 18 年度予算 18 年度役員選出
7/7	平成 18 年度公開説明会・研究室公開 地域連携セミナー・情報通信分野 (17 番教室). 「産総研におけるオープン ソースソフトウェア開発状況と組み 込み系への適用可能性について」, 大 蒔和仁氏 (S49 電子卒, 産業技術総 合研究所 研究コーディネータ)	
7/7	地域連携セミナー, 「組み込みシステ ム」, 《情報システム工学科, 地域連 携推進センター, 情報メディアセン ター, 情報処理学会東北支部, 岩手県, ICS 共催》(一祐会館)	7/8 盛岡支部総会 (エスポワールいわて) 出席者 16 人 「鎌田先生、入江先生の思い出を語る 会」
	①基調講演「岩手県における組み込 みシステム産業振興の取り組み」岩 手県商工労働観光部産業振興課主査 小野和紀氏 ②招待講演「産総研におけるオー プンソースソフトウェア開発状況と組 み込み系への適用可能性について」 (独)産業技術総合研究所研究コ ーディネータ大蒔和仁氏, 「組み込み分野企 業の最前線」(株)日立アドバンス デジタル横浜本部本部長 平島 茂氏	

7/11-12	平成 19 年度一般編入学者選抜試験。 電気電子工学科 12 名合格, 情報システム工学科 7 名合格		
7/14	学術講演会《電子情報通信学会東北支部主催》(工学部 17 番講義室)。 「光ブロードバンドユビキタスの取組みと次世代ネットワークの展望」, 狩野利之氏 (S61 電子卒, NTT 東日本)		
7/14	平成 19 年度大学院工学研究科博士前期課程推薦入学者選抜試験。情報システム工学専攻 6 名合格	7/22	仙台支部総会 (ハーネル仙台) 出席者 33 人 支部活性化特別費による事業 役員改選
8/7	情報システム工学科スポーツ大会		
9/4-5	平成 18 年度大学院工学研究科博士前期課程入学者選抜試験。《平成 18 年 10 月入学》情報システム工学専攻 2 名合格 平成 19 年度大学院工学研究科博士前期課程入学者選抜試験。《平成 19 年 4 月入学》電気電子工学専攻 25 名合格, 情報システム工学専攻 24 名合格	8/26	平成 18 年度第 2 回理事会 (国保会館) 出席者 13 人 各支部の報告 「きたかみ」53 号について 新入会員歓迎会について 第 4 回草刈賞選考について 年会費徴収について その他
9/6	平成 18 年度大学院工学研究科博士後期課程入学者選抜試験。《平成 18 年 10 月入学》電子情報工学専攻 3 名合格 平成 19 年度大学院工学研究科博士後期課程入学者選抜試験。《平成 19 年 4 月入学》電子情報工学専攻 2 名合格		
9/25-27	電気電子工学科工場見学《関東地区》 (東芝 京浜事業所, 新日本無線 川越製作所, パイオニア 川越事業所, 富士通 川崎工場・研究所)。引率: 大坊, 山田教員 (参加者 40 名)		
9/27	電気電子工学科工場見学《東北地区》 (岩手東芝エレクトロニクス)。引率: 叶教員 (参加者 31 名)		
9/27-9/29	大学院工学研究科博士前期課程電気電子工学専攻修士学位論文中間審査		
9/29	平成 18 年度岩手大学修了式・卒業式 (岩手大学農学部付属農業教育資料館)。 工学部: 6 名 (情報システム工学科 1 名) 大学院工学研究科博士後期課程: コース 2 名 (電子情報工学専攻 2 名) + 論文博士 1 名		
10/2	岩手大学入学式 (岩手大学事務局)。 大学院工学研究科博士前期課程: 2 名 (情報システム工学専攻 2 名) 大学院工学研究科博士後期課程: 5 名 (電子情報工学専攻 3 名)		
10/5	電気電子工学科特別講義 (H51 番講		

10/13	義室)。「移動体通信の今とこれから -生活に役立つケータイの実現に向 けて-」, 吉澤和弘氏 (NTTドコモ 経営企画部経営企画担当部長)		
10/24	電気電子工学科特別講義 (17 番講義 室)。「電気から学ぶ」, 佐藤利三郎氏 (東北大学名誉教授, 仙台 EMC 研究 センター推進部会 部会長)		
10/28-29	「EMC のための電磁界の視覚化」, 越後 宏氏(東北学院大学工学部 教授)		
11/7	大学祭 (オープンキャンパス) 電気電子工学科経営実践学特別講義 (25 番講義室)。「これからの企業が求 める技術者像-経営者が期待するも の-」, 梅 良之氏 (S42 年電気卒, 株 TTK 代表取締役社長)		
11/6	大学院工学研究科博士前期課程情報 システム工学専攻 2 年特別研修発表 会 (12 月中旬まで大講座単位)		
11/18	平成 19 年度推薦入学試験. 電気電子 工学科 12 名合格, 情報システム工学 科 17 名合格		
11/29	大学院工学研究科博士前期課程電気 電子工学専攻 1 年次中間発表会		
12/8	電気電子工学科経営実践学特別講義 (25 番講義室)。「通信ネットワークと デバイスビジネス」, 土屋治彦氏 (宇 都宮大学工学部 教授)	12/6	「きたかみ」編集委員会 (岩手大学工学部電気電子工学科会議 室)
12/15-22	大学院工学研究科博士後期課程会予 備審査会 (情報システム工学講座)		
平成 19 年 (2007 年)		平成 19 年 (2007 年)	
1/12	平成 18 年度情報処理学会東北支部研 究会 (一祐会館)		
1/12	電気電子工学科経営実践学特別講義 (25 番講義室)。「半世紀に亘るサラ リーマン生活を振り返って ~サラリー マンの心得~」, 池田隆夫氏 (S35 年 電気卒, 富士通エフ・アイ・ピー株 前代表取締役社長)	1/22	第 4 回草刈賞選考委員会 (岩手大学工学部電気電子工学科会議 室)
1/20-21	大学入試センター試験	1/27	平成 18 年度第 3 回理事会 (国保会館) 出席者 13 人 各支部の報告 草刈賞選考について 新入会員歓迎会について 「きたかみ」53 号の進捗状況につ いて 年会費徴収状況について 平成 19 年度総会について その他



ばっけ（ふきのとう）

編集後記

前年の、あの大雪はどこの国のことだったのかと戸惑うほどの暖冬でした。

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

「きたかみ」53号をお届けします。

この53号には柏葉先生、旗福先生、吉田弘さんにご寄稿いただきました。ありがとうございます。

また、盛岡支部だよりには、鎌田先生と入江先生の思い出を語る会の様子が載っています。両先生の懐かしいお姿とエピソードに、学生時代のご自分に戻られた方もいらっしゃるかと思います。

今年も事務局3人で、何とか発行までこぎつきました。至らぬ点や落ち度があるかと思えます。どうぞお許してください。

この暖冬で、1月に「バッケ」が顔を出し、びっくりしました。「バッケ」をお忘れの方、写真だけですが、盛岡の春の香りをお届けします。

編集委員

事務局	電気62年卒	長田	洋
	情報平3年卒	木村	彰男
	電子45年卒	柳橋	好子

きたかみ 第53号

発行日	平成19年3月1日
発行者	盛岡市上田4丁目3番5号 岩手大学工学部内 岩手大学電気電子情報科会
	☎019-621-6381
印刷所	(株)阿部謄写堂 盛岡市本町通2丁目8番37号
	☎019-623-2361

平成 19 年度総会並びに懇親会開催のご案内

平成 19 年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。なお、盛岡支部総会も併せて行います。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

なお、住所や勤務先等の確認にも使用させていただきますので、綴り込みのハガキで総会への出欠を、1 ヶ月前の平成 19 年 5 月 9 日までにご連絡を頂きたいようお願い申し上げます。

記

日 時 平成 19 年 6 月 9 日 (土)

盛岡支部総会 午後 2 時 30 分～ 3 時 00 分

総 会 午後 3 時 00 分～ 4 時 00 分

講 演 会 等 午後 4 時 00 分～ 5 時 00 分

懇 親 会 午後 5 時 00 分～ 7 時 00 分

場 所 いわて国保会館
盛岡市大沢川原三丁目 7-30
TEL 019-623-4321

議 題 1. 平成 18 年度事業報告、決算報告承認
2. 平成 19 年度事業計画案、予算案審議
3. その他

講 演 会 演題「地上デジタル放送のチャンネルかけひき」 講師:井 上 隆 志 氏 (電気 40 年卒)
「地上デジタル放送の実情 (仮題)」 講師:杉 本 務 氏 (電気 33 年卒)

懇親会会費 5,000 円 (懇親会席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)

連 絡 先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴り込みのハガキを使用するか、
下記事務局宛電話、FAX 又は E-mail 等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会事務局 (岩手大学工学部電気電子工学科 432 号室) 兼

電気電子工学科担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381

E-mail osada @ iwate-u.ac.jp

情報システム工学科担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488

E-mail kimura @ cis.iwate-u.ac.jp

庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253

E-mail t.k-yngbs @ nifty.com